

宇都宮市立今泉小学校第4・5学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○5年生では、家で学校の宿題をしている児童は100%であり、宿題の習慣がよく身に付いている。
○4年生では、「じゅ業を集中して受けている」という質問の肯定率が、本校71.7%で、県を17.4ポイント、市を13.6%と大きく上回っていて、意欲的に授業に取り組んでいる児童の割合が高い傾向にある。
○4年生の96.0%、5年生の93.8%が話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができると答えている。また、友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意だと答えた児童が両学年とも県の平均を上回っている。
○各教科の学習が将来のために大切であると考えている児童の割合が高い傾向にある。

●家で授業の予習・復習をしている児童が4年生ではそれぞれ61.6%であるが、5年生では44.8%、43.8%で、肯定率が県の肯定率に対して10～15ポイント程度低くなっている。地域学校園で昨年度作成した「家庭学習の手引き」を活用しながら家庭学習の習慣化を図る。

●携帯電話・スマートフォンを持っている児童が4年生で39.4%、5年生で38.5%と、両学年とも県の肯定率に対して10ポイント程度高くなっているため、携帯電話やスマートフォンを安全に使用できるように継続的に呼びかける。